

口頭⑤

かかりつけ薬局・薬剤師機能を強化するために

管理者育成研修
○平野 あや（若松町店）
小塚 貴子（河田町店）
野澤 彩子（田端店）
山田 麻矢（若松町店）
市川 真央（南千住）

昨年4月より、かかりつけ薬剤師制度がスタートし、対物業務から対人業務へのシフトが明確化された。

かかりつけ薬局・薬剤師として何を行うべきか、私たちが現場で考え、業務内容を強化していく必要がある。

そこで、以下の取り組みを行った。

【目的】

かかりつけ薬局・薬剤師としての活動を考え実践することで、患者との信頼関係を構築し、かかりつけ薬局・薬剤師としての機能を強化する。

【方法】

5店舗において、ハイリスク加算・防止加算の算定への取り組みの見直し、店舗内勉強会の開催等を行った。

また、かかりつけ薬剤師を必要とする患者像を検討・抽出し、来局者に対して声かけを行った。同意書をかわした患者に対しアウトカム（目標、理想像）を設定し、達成のための「服薬支援計画書」を作成することで、毎回の計画的な支援を行った。支援の中で多職種との連携を積極的に考慮・実施した。

【結果】

勉強会の開催、各加算算定への取り組み等を通じ、服薬支援業務の意識・スキルが向上した。また、かかりつけ薬剤師が服薬支援計画をもとに服薬サポートを行うことで、血圧コントロール、残薬、便秘解消などのアウトカム達成例が得られた。

【考察】

個々の患者ごとの中長期的な目標＝アウトカムを設定することで、患者自身の療養に対する意識が変わり、薬剤師自身も取り組むべきことが明確化され、効果的であると考えられる。患者のために薬剤師として何ができるのか、具体的に考え実施していくことは、今後のかかりつけ薬局・薬剤師機能を強化するために、有効な手段であると考えられる。